

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所SIRUSI		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 18日		～ 2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2025年 3月 17日		～ 2025年 3月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	外出活動を積極的に取り入れ、実際の社会環境の中で学ぶ機会を提供している。これにより、子どもたちの適応力や社会性が自然に育まれる。	ただの外出ではなく、子どもが安心してチャレンジできるように事前の視覚支援(写真や絵カードでの説明)を活用。また、行先ごとに目的を設定し、社会性や生活スキルの向上につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習の強化: 外出前に絵カードや動画を活用し、行先の環境やルールを事前に学ぶ機会を増やす。 役割分担を設定: 子どもごとに「切符を渡す」「お店で注文する」などの役割を決めることで、主体的に参加できる機会を増やす。
2	言語訓練を取り入れ、子供ひとりひとりの発達段階に応じたコミュニケーション支援を行っている。子どもの成功体験を積み重ねることで、自信につなげている。	言葉の発達を支えるために、単なる発話練習ではなく、遊びや絵本、歌などを取り入れて楽しく学べるようにしている。視線やジェスチャーなど、子どもに合ったコミュニケーション手段も活用し、成功体験を積みやすくしている。	<ul style="list-style-type: none"> 多様な教材の活用: 絵カードや動画等を活用し、視覚的に分かりやすく伝える工夫をする。 家庭との連携強化: 保護者にも簡単にできる言語訓練の方法を伝え、家庭でも継続できる環境を作る。
3	「できない」を「楽しい、できる」に変えることを重視し、子どもが前向きにチャレンジできる環境を作っている。失敗を否定せず、楽しみながら成長できる場となっている。	失敗を責めず「できる!」と感じられるように、小さなステップで達成感を得られる支援を工夫。できたことを具体的に褒めることで、子ども自身が成長を実感できるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップの明確化: 「できる!」をより実感できるように、活動ごとに小さな目標を設定し、達成できたことを記録する。 成功体験の明確化: 子どもが自分の成長を実感できるように、写真やシールを使った「できたことリスト」を作る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子ども一人一人のペースに、完全に合わせるのが難しい部分がある。特に集団行動では、支援の手厚さにばらつきが出る可能性がある。	子ども一人ひとりの発達段階や特性が異なるため、集団活動では全員に最適な支援を提供するのが難しい。支援員の配置やサポートのバランスを調整する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> スタッフの役割分担を明確化: 個別支援が必要な場面で適切なサポートができるようにする。 小グループ活動の導入: 集団活動でも、少人数のグループを作り、それぞれの特性に合わせた支援を行う。
2	外出活動が多いため、天候や外部の状況によって計画が変更されることがある。その際代替プログラムの柔軟な対応が求められる。	外出活動は天候や施設の都合に左右されやすく、計画通りに進められないことがある。特に、子どもによっては予定変更がストレスになるため、柔軟な対応が求められる。	<ul style="list-style-type: none"> 代替プログラムの充実: 天候不良や外部環境の影響を受けたときのために、室内でもできる活動をあらかじめ準備しておく。 予定変更時の対応マニュアル作成: 変更が苦手な子どものために、急な予定変更時のフォロー方法(事前に予備の選択肢を示す、視覚支援を活用するなど)をマニュアル化する。
3	子どもごとの成長をどのように定量化、定量的に評価するかが難しい。個々の成長を可視化する仕組みが必要となる。	「できる!」を重視する方針のため、成長を数値化するのが難しい。保護者や支援者間で共通認識を持ちにくく、個々の進捗をどう可視化し、支援計画に反映するかが課題になって	<ul style="list-style-type: none"> 成長記録の仕組み化: 簡単なチャートやシートを作成し、子どもの成長を視覚的に記録する仕組みを導入する。 保護者との情報共有を強化: 支援の様子や成長の変化を保護者と共有しやすくするために、写真や動画を活用した記録ツール(アプリや連絡帳)を活用する。